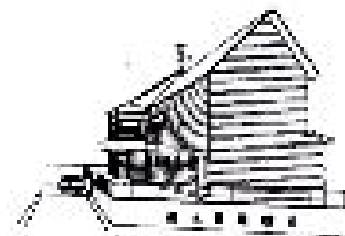


< 教会の学びから > “教会の学び”では様々な、その時にふさわしいテーマを選んで、全員で学んでいます。さて今日は聖書を取り上げましょう。“聖書ならいつも読んでいるし、学んでいる”と反論されるかもしれませんが、けれども、“どんな読み方をしているのでしょうか”ということになると、兄弟によってかなり違うかもしれません。違ってもいっこうに構わないのですが、今日は“みんなで読む”ということに挑戦してみたいと思います。しかも一つの書の全てを、この時間内に読んでみたいと思います。そのために短い聖書を選びました。旧約聖書にハガイ書というのがあります。ご存知でしたでしょうか。説教でこの書が取り上げられることは少ないかもしれませんが、教えられる神の救いの約束の言葉です。2章しかありません。ですから、そんなに長い時間を使わなくても読めると思っています。そして、一応覚えておきたいものです。分からない言葉や、何のことがよくわからないところはそのままにして、一応読んでおくのです。そうすればある時、その御言葉が、心の中で力を発揮するのではないのでしょうか。ハガイというのは、祭りに結びつく言葉で、バビロン捕囚からの帰還の時の出来事について記されていることから、神殿について心を深く神に傾けた預言者の一人だというふうに考えられています。記した年代ですが、イザヤも予言しているペルシャ王クロスによってバビロンが滅ぼされたのが B.C.539 年で、その後エルサレム帰還が認められた時のことが記録されていますので、想像できます。またハガイの年齢ですが、エズラ記2章に帰ってきたユダヤ人の主だった人々の名が記されているのに、ハガイの名がないので、まだ若い人だったとも説明されていますし、記述の方法がかなりの年配者であったとも、言われています。これだけ見ても聖書は、読む者の信仰によって確かなものになることが理解できると思います。神殿再建の記録はエズラ記3章以下にあります。しかしサマリア人たちの反対をきっかけに、工事は16年間中断してしまいます。捕囚期に成長した人々には、神殿礼拝の経験がなかったことも手伝ったでしょう。問題はこの16年のとん挫です。第五回日本伝道会議のテーマ“危機の時代の宣教協力”にも通じるところかも知れません(この個所からも講解がされました)。教会の働きは、せっかく開始されたのに、この16年間のように、失望の時期に入ってしまったら、我々にはあきらめが先行していると思っではいけないのです。ハガイ2：1～5を思い出しましょう。

週報

2009年 11月 15日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp